

南比企窯跡群



新沼窯跡の文様瓦

新沼窯跡(第2・3次)発掘調査

- 調査期間 第2次 平成23年6月1日～11月18日
第3次 平成23年11月21日～24年3月30日
- 調査主体 埼玉県比企郡鳩山町教育委員会

南比企窯跡群は、鳩山町の亀井地区を中心に、一部ときがわ町と嵐山町にかけて広がる奈良・平安時代の須恵器・瓦を生産した遺跡です。現在までに約500基の窯跡が確認されていますが、近年の調査成果からは総数1000基を超える窯跡が予想されます。ゴルフ場の造成に先立つ大規模調査では、窯跡以外に工房・粘土採掘坑もセットで発見され、国内でも稀有な「須恵器のムラ」として考古学会の注目を集めました。こうした内容から、南比企窯跡群は東日本最大、国内でも5本の指に入る規模の遺跡とされています。

新沼窯跡は、この南比企窯跡群を構成する窯跡の一つで、その発見は古く江戸時代まで遡ります。本格的には昭和34年の立正大学考古学研究室による発掘で多数の郡名瓦が出土、武蔵国分寺の瓦を生産した代表的な遺跡として、学会では著名な存在でした。

新沼窯跡の調査概要

今回の発掘調査は、鳩山町が全国に誇れる文化財である窯跡群を保存活用する準備の一環として、平成23年6月から実施しているものです。

地権者のご理解・ご協力のもと、可能な限り表土を除去する方法で調査を進めたところ、当初は数基と想定していた窯跡が26基(重複も含めると29基)も確認されました。

注目されるのは、今回確認された窯跡が全て8世紀中葉～後半(奈良時代後半)の国分寺創建期で、須恵器と共に多量の国分寺瓦を焼いていたと判断される事です。つまり今回発見された26基の窯跡は、武蔵国分寺の瓦を造るために造られ、実質20～30年間の短期に集中して操業していたと考えられるのです。

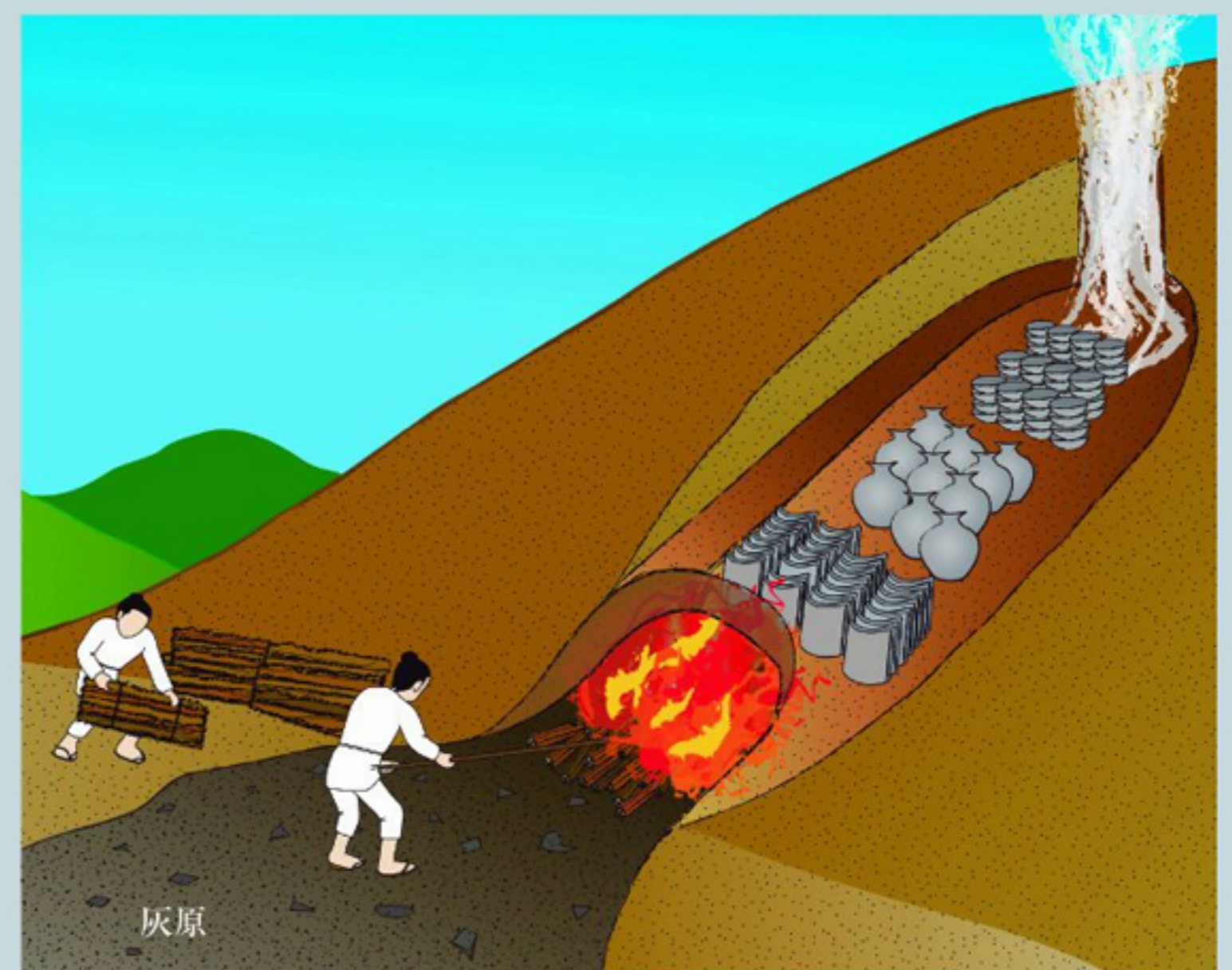
規 模

新沼窯跡で確認された26基の窯跡、これを全国の瓦窯跡と比較すると、国内最多24基の瓦窯跡が調査された香川県三豊市の史跡宗吉瓦窯や、同数の窯が確認されている茨城県石岡市瓦塚窯跡(常陸国分寺の瓦窯)を凌ぐ規模です。新沼窯跡は、その操業期間の短さも含め国内最大級の国分寺瓦窯とすることが可能です。

窯の構造

確認された窯のうち構造が判明したものは全て地下式の無段、直立煙道をもつタイプです。この形態は鳩山の須恵器窯では一般的なものですが、逆説的に言えば新沼は須恵器窯をベースに瓦を焼いた窯場と言えます。

窯は使用に伴い天井の剥落が多少なりともあるようで、それを修理しながら最低でも数回は使用されたと推測されます。また、窯の内部を拡張し、焚口付近に段を設ける窯(SY12)もあり、須恵器窯で瓦を焼くための工夫として注目されます。さらに、天井崩落で使用できなくなった場合、潰れた窯を作業場にさらに奥の斜面を掘り抜いて築窯する窯(SY6)もあります。



操業時の窯(イメージ)

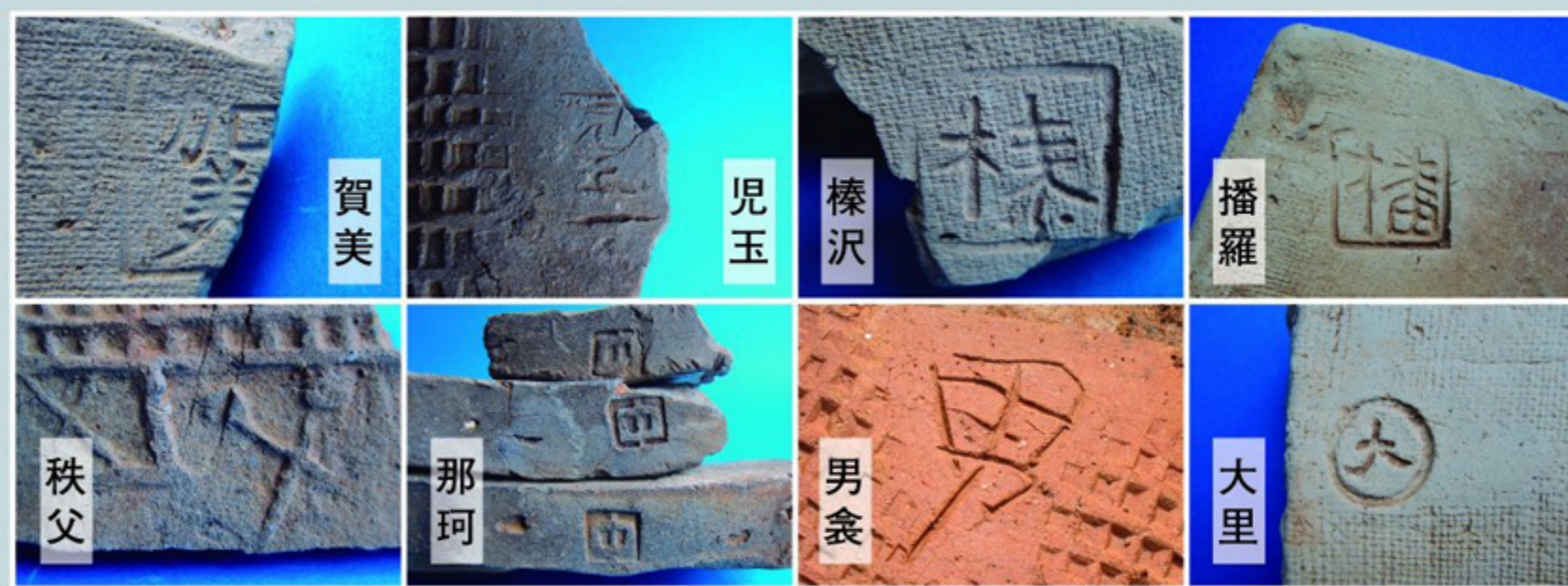
出土遺物の概要

出土した遺物は収納箱で約200箱もありますが、これは灰原と呼ばれる失敗品の捨て場を調査していない状態での量であり、それを含めた新沼窯跡の総遺物量は1万箱に迫るものと推定されます。

遺物の大半は瓦ですが、須恵器の出土量も多く、^{つき かめ ちょうけいこ} 坏・甕・長頸壺と言った一般的な器種以外に^{えんめんけん こうばん} 円面硯や高盤等もあり、窯構造だけでなく製品からみても新沼が須恵器窯をベースとしていることを窺わせます。

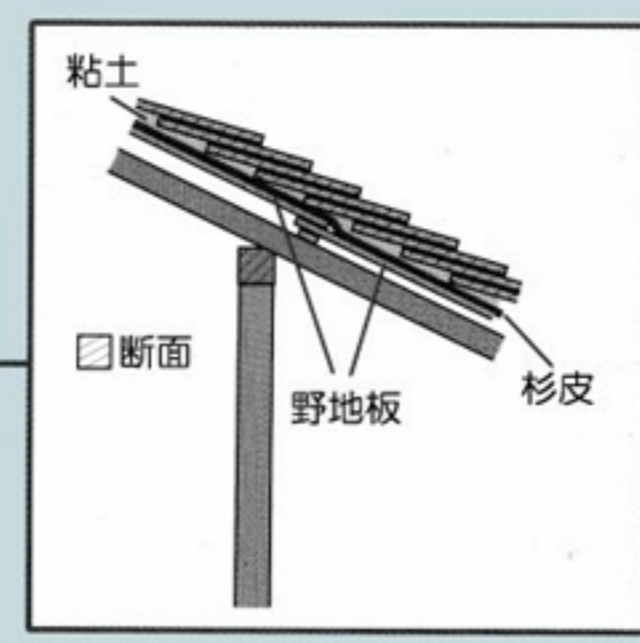
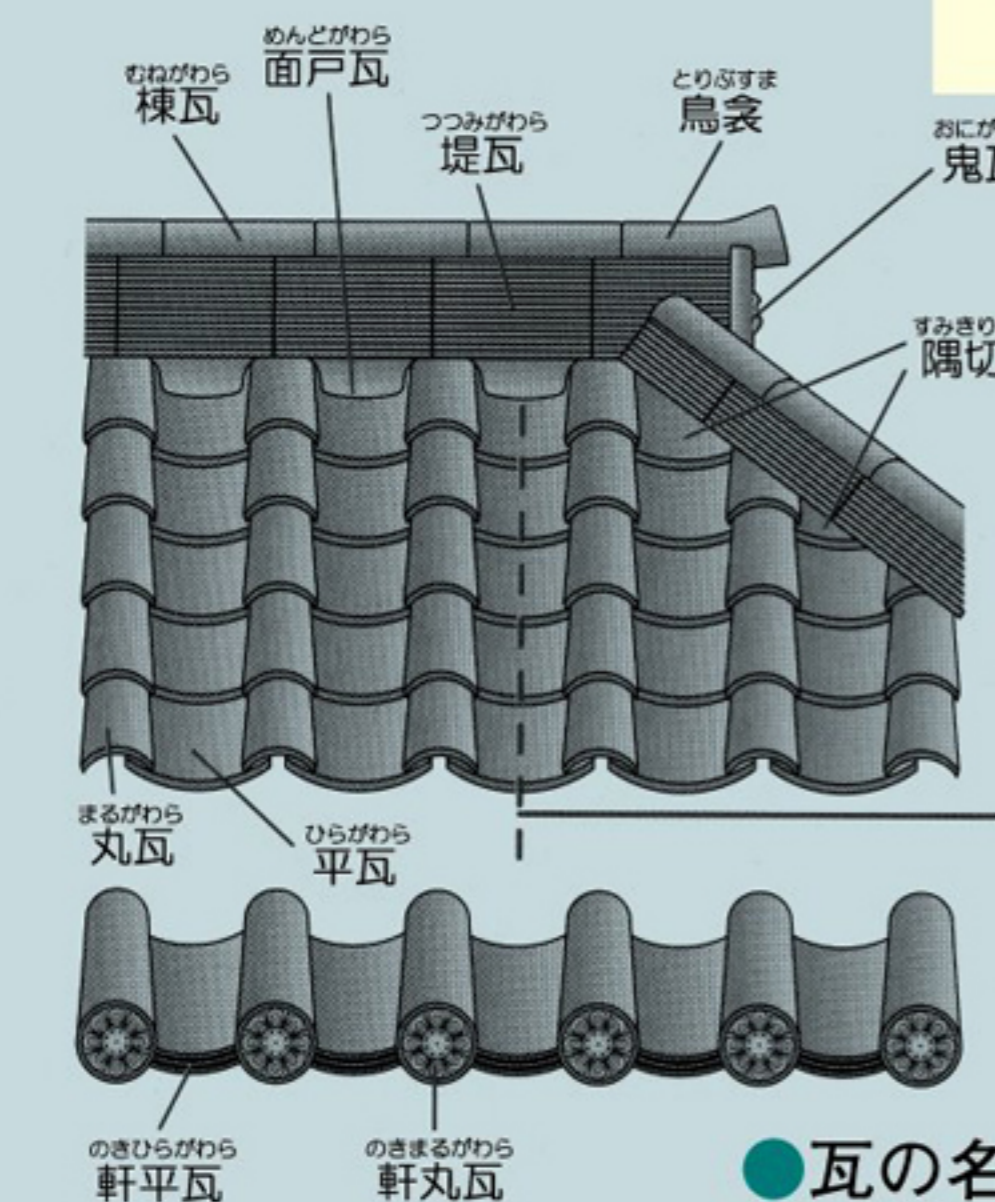
瓦には^{のきひらがわら のきまるがわら} 軒平瓦・軒丸瓦以外に、^{ひらがわら まるがわら} 平瓦・丸瓦といった一般的な瓦、^{のし} 鬘斗瓦や鬼瓦も出土しています。特に鬼瓦は絶対的に数が少ない象徴的な瓦であることを考えると、新沼窯跡が武蔵国分寺の瓦生産において重要な役割を担っていたと考える根拠となります。

なお、出土した瓦には、その生産にあたっての費用負担の証として、当時の行政単位である郡や郷を記したものが多く見られます。今回の調査だけでも、武蔵国21郡のうち13郡(秩父・児玉・嘉美・那珂・榛沢・播羅・男衾・大里・横見・高麗・入間・足立・豊嶋)、他に郷名として白方(豊嶋郡)・草原(埼玉郡)・麻羽(入間郡)・大井(久良郡か児玉郡)を確認しています。文字は押印によるもの以外にヘラで直接書いた瓦も多くあり、生産する場面に文字の書ける役人の存在を窺わせます。

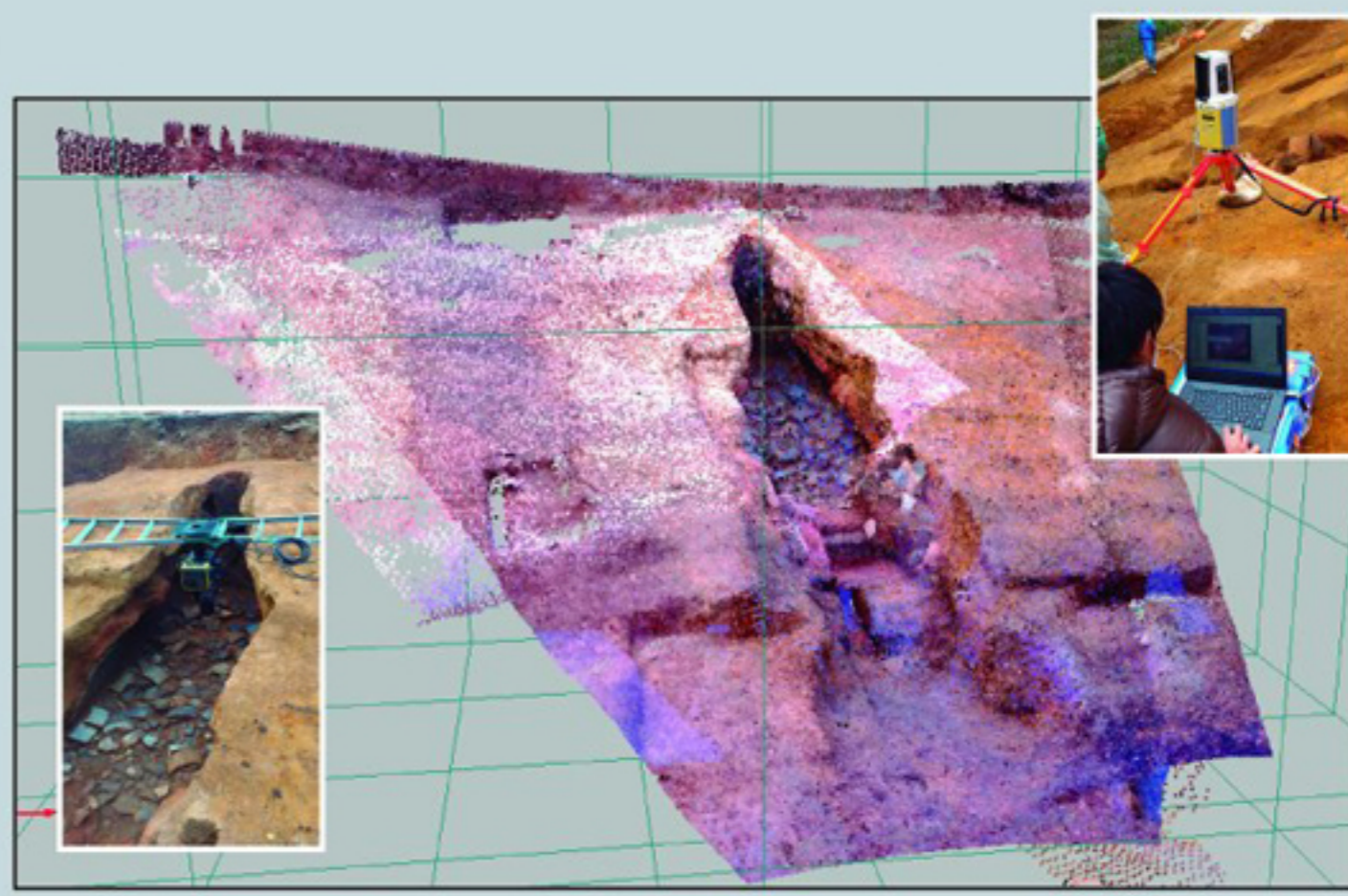


● 鬼瓦推定図

古代武蔵国と鳩山の位置



● 瓦の名称と使用場所



● 三次元測量



1/300

0 10m



新段階の窯の作業面

古段階の
窯の炊口部



6号窯の最終作業面

須恵器・瓦片の出土は少なく、大ぶりの炭化物層の下には赤く被熱した面。最後は炭窯に転用されたい。

6号窯調査状況

古段階の窯の上層に新段階の窯の作業面が重なる。直列に重複する窯の例。

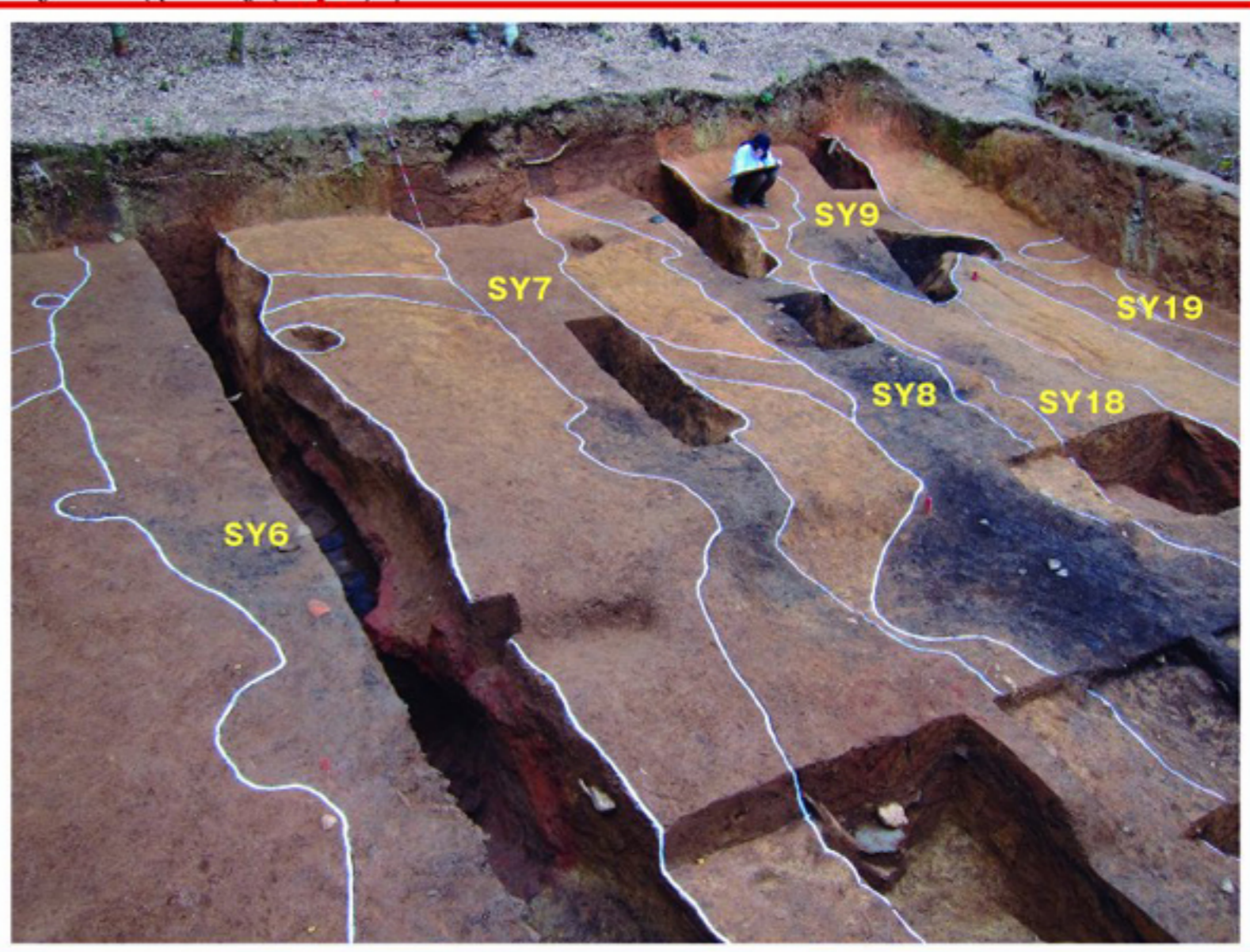


- 窯跡
- 溝跡
- 土坑
- 埋没谷
- 灰原
- 縄文包含層



12号窯最終作業面

焼成部の床には瓦片を敷きつめ、炊口部付近の壁には瓦片を粘土で貼り付けて補強。手前には4面重なる床の断面。1つの窯を改修して使い続ける例。



B1区(第2次)窯跡確認状況。 並列する窯跡の検出状況。